

大方改良開通

一般国道56号大方改良が3月24日(日)に開通し、これを記念して開通式典が行われました。

開通したのは、入野神の前から入野立石までの2.6km。道幅が狭く歩道が整備されていなかった旧国道の課題を解消し、歩行者や自転車利用者の安全確保、地震発生時の避難、被災後の迅速な救援・復旧活動などを支援する目的で建設されました。

役場本庁の駐車場で開催された式典には関係者約160人が出席し、主賓の一人としてあいさつをした尾崎正直県知事は、「開通により、危険だった入野地区の安全



セレモニーでのテープカット



もち投げの様子

た車両が通行し、沿道に集まった人たちは旗を振りながら見送り、開通を祝いました。

と渋滞の問題、物流の支障が解消され、スムーズに地域がつながる。また、地震や津波が来たときの避難など、この道は多くの人の助けとなるだろう。命の道として、また、地域の活性化に役立つ道として期待したい。関係者の皆さんに感謝したい」と話しました。

式典後、役場下を通る大方改良の道路上で行われたセレモニーには多くの住民が集まりました。大方中学校と佐賀中学校によるブラスバンド演奏で幕を開け、関係者によるテープカットとくす玉割り、幡多舞人のよさこい踊りやもち投げが行われました。その後、開通記念パレードとして関係者を乗せた



幡多舞人によるよさこい踊り

道の駅なぶら土佐佐賀5周年祭

4月14日(日)、道の駅なぶら土佐佐賀で5周年祭が行われ、県内外から多くの人が訪れました。

幡多舞人のよさこい踊りが披露され、その後のもち投げは、冷蔵のカツオなども投げられ、来場者からは歓声が上がりました。

この日のメインイベントであるカツオのタタキ食べ放題では、チケットを求める人で開場前から長蛇の列ができていました。

いの町から友達同士7名で訪れた女性は、「黒潮町といえばカツオ。毎年このイベントを楽しみにしている」と列に並びながら話しました。

食べ放題には、タタキのほかに田舎寿司や魚飯、タケノコやイタドリなど旬の食材を使ったメニューも充実し、来場者にも好評でした。



わらで焼くカツオのタタキ

徳島から訪れた夫婦は、「たまたま遊びに来たらちょうど5周年祭で食べ放題をしていて



人気のカツオのタタキ

ラッキーだった。高知のタタキはやっぱ美味しい。たくさん食べて帰りたい」と話しました。

会場には、高知ファイティングドッグスのグッズ販売や、JAF(日本自動車連盟)による会員向けの抽選会、子どもを対象に写真撮影し、運転免許証に似たカードを発行するブースなど、そのほかにも多くの出店があり、来場者は軒下販売を楽しみました。

なぶら土佐佐賀駅長代理の明神友和さんは、「5周年という節目を迎え、この道の駅に訪れてくれた皆さんに感謝。今日はたくさんタタキを味わってほしい。そしてこれからも



賑わうバイキング